

# 経営事項審査 約10年ぶりの大改正

## 登録経営状況分析機関 ワイズ公共データシステム(株)が改正内容を解説

### 平成20年4月1日より新経審スタート

国土交通省は1月31日、およそ10年ぶりとなる経営事項審査制度の大改正を発表した。昨年6月には中央建設業審議会ワーキンググループ第4回経営事項審査改正専門部会にて経審改正の概要資料は公開されていたが、本年1月31日の改正発表まで詳細計算式などは一切発表されず、気を探っていた人も少なからずあった。今回の大改正に関して、登録経営状況分析機関のワイズ公共データシステム(株)では、独自の点数シミュレーションソフトを開発し、今回の改正では、中小企業は軒並み点数がダウンすると思われるが、実際にはどうなのか? 公表された資料及び独自シミュレーションソフトの結果を通して新経審の特徴を解説していく。

### 新経審はW(社会性)が最大のポイント

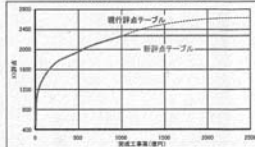
現行経審でY点1430点が、新経審では900点台の会社も! 今回の経審改正の目的を国土交通省は、「公共工事の企業評価における格差として、公正かつ実態に即した評価基準の確立」、「生産性の向上や経営の効率化に向けた企業の努力を評価・後押し」と発表している。では、具体的にどのような経営状態の会社が高い評価を受けるのか? 次項において、今回の改正ポイントをお各項目毎にまとめてみたので、是非とも自社の状況把握と併せて今後の対応に役立てて頂きたい。

### 経営事項審査ポイント 改正のポイント

**A. Q. X1(完工高評価)はどう変わったのですか?**

X1は、総合評価に対するウェイトが35%から25%に下げられました。完工高5億円以上の場合、P点(総合評価)換算で10%点数が下がり、完工高5億円未満の場合はそれ以上に点数の減少率が大きくなります。

新旧評価テーブル(全体図)



ポイント① 大企業: 最高点を引き下げ、完工高競争に制限をかける。 中小企業: 大企業とは逆に完工高による点数差が出やすいように改正。

新旧評価テーブル(完工高5億円以下の部分)



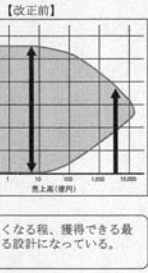
ポイント② 新経審では、完成工事高が5億円未満(横軸)の会社に限り、現行経審よりもX1評価で0.1200点ほど点数が下がるように設計されている。

**A. Q. X2(自己資本評価)はどう変わったのですか?**

X2は職員数の評価が廃止され、自己資本額と利益額で点数が決まります。これまでと違い、自己資本額、利益額自体が点数を取りやすい指標になりました。

**A. Q. Y(経営状況評価)はどう変わったのですか?**

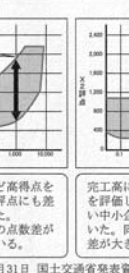
まずは、国土交通省発表の左のグラフをご覧ください。改正前の経審では、売上高10億円未満で最高点が高く、規模が大きくなる程、獲得できる最高点が下がって設計になっています。



次に、改正後のグラフですが、これまでは逆に規模が大きくなるに従って最高点も上がっている

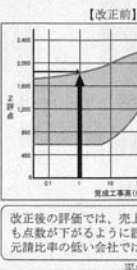
**A. Q. Z(技術力評価)はどう変わったのですか?**

新しいY点評価は、簡素化の観点から、12指標から8指標に減少しました。しかし、倒産率のしやすさを見抜く「倒産判別率」は現行と比べ大幅に向上されたといえます。今回の改正では、絶対額(絶対的力量評価)が採用されたため、中小の会社では高得点が望めません。それを裏付ける資料として、売上高4億円未満で、現行経審ではY点最高の1430点を獲得している会社を新経審でシミュレーションしたところ、Y点は959点という結果になりました。これまでも同規模会社間ではY点による競争が主流でしたが、今後はW点Z点での競争を暗示する結果となつていきます。

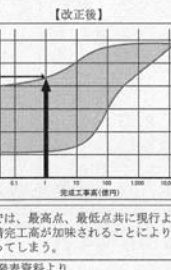


売上高1千億円以上の会社  
最高点 約1,950点  
最低点 約600点  
※同規模業者間の点数差が大きい。  
※改正前経審に比べ、2倍近くの点数を獲得できるようにした。

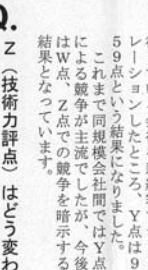
売上高5億円程度の会社  
最高点 約800点  
最低点 約450点  
※同規模業者間の点数差が小さい。  
※改正前経審よりも獲得できる最高点が下がってしまった。



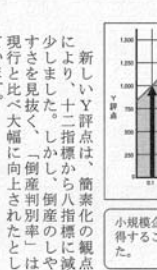
改正後の評価では、売上高10億円未満の建設会社では、最高点、最低点共に現行よりも点数が下がるように設計されている。また、元請完工高が加味されることにより、元請比率の低い会社では、現行よりも点数が下がってしまう。



業種Z(技術力)については1人2人までに加算が限定されます。これまで1人当たり平均三三七で実質減点となります。新しく監理技術者講習受講者や基幹技術者



新しY点評価は、簡素化の観点から、12指標から8指標に減少しました。しかし、倒産率のしやすさを見抜く「倒産判別率」は現行と比べ大幅に向上されたといえます。今回の改正では、絶対額(絶対的力量評価)が採用されたため、中小の会社では高得点が望めません。それを裏付ける資料として、売上高4億円未満で、現行経審ではY点最高の1430点を獲得している会社を新経審でシミュレーションしたところ、Y点は959点という結果になりました。これまでも同規模会社間ではY点による競争が主流でしたが、今後はW点Z点での競争を暗示する結果となつていきます。



小規模企業では、Y点で最高点を獲得することは現実的に不可能となった。

ことが読み取れると思います。

### 業界最速 新経審シミュレーション結果

**シミュレーション事例① (現行経審でY点最高(1,430)点→新経審では...)**

項目	現行経審	新経審
Y点	1,430点	959点
P点	999点	900点

**シミュレーション事例② (W点雇用保険、健康保険・厚生年金保険の加入の有無)**

項目	加入あり	加入なし
W点	690点	600点
P点	810点	900点

御社の結果は如何でしたか?

ワイズ公共データシステムが無料で提供する経営シミュレーションと書類作成ソフト「経営マネージャー 新経審対応版」の買出結果より。

**A. Q. W(社会性)はどう変わったのですか?**

Wは点数の幅が大きくなりました。特に雇用保険、健康保険・厚生年金保険に未加入だった業者の場合、加入業者に比べ、実にW点で600点(P点では900点)のマイナスになります。今回、国土交通省が社会性評価にこれほど重点を置いたのには、昨今の建設業界での不祥事を受けて、公共事業を受注する企業の社会的責任(CSR)を明確に示す狙いがあると思われれます。

今回の改正において、中小企業の同規模業者間で最も点数差が出る項目として見直しが行われた。そのため、社会保険の整備状況次第では、現行経審に対して大幅に点数が下がってしまう可能性も有り得る。

**総論**

- ◆総合評価(P点)は大多数の中小企業で、数十点~数百点の点数ダウン。
- ◆X1(完工高評価)は5億未満の建設会社で大きく点数ダウン。
- ◆X2(自己資本評価)は大企業に有利な設計。
- ◆Y点では、中小企業で高得点が難しく、企業間の点差もつきにくい。
- ◆今後、中小企業はW(社会性等)で点数アップや競争を。

●中小企業では経審での点数差が付きにくい。  
●総合評価方式の入札制度では、今後は経審より工事評価が重要なカギ!?